

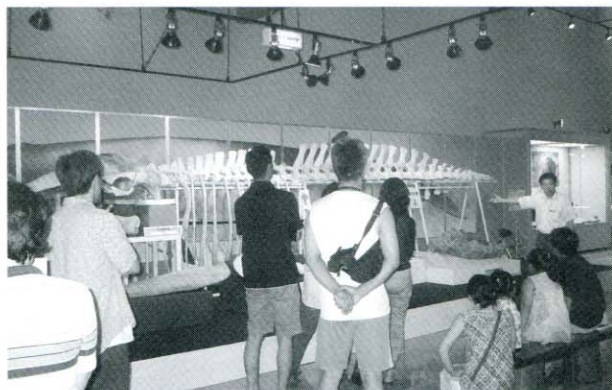
# 博物館だより

第67号

2006.11.20

Nagano City Museum

## 骨の動物園一万近くの来場者でにぎわう



7月23日から9月10日まで開催された、第51回特別展「骨の動物園」は大変好評で、会期中に家族連れを中心に9424名の来場者がありました。コウガゾウの全身骨格をはじめ、展示された多くの骨から、一味ちがった形で動物たちを学んでもらえたようです。「骨クイズ」と一緒におこなった人気投票（回収1806票）では、コウガゾウが500票以上を集め堂々1位になりました。2位ミンククジラ（195票）、3位イルカの仲間（131票）と続きます。4位には、世界最小の哺乳類トガリネズミ（67票）が入り、小さいながらも存在感を示しました。

骨の動物園の来場者、裏方として支えたスタッフの感想を紹介します。

（田辺 智隆）

### 展示解説ボランティアをしてみよう

「ネコさんの骨？うちにもいるよ」「クマさんの歯って大きいんだね」「キリンの足ってこんなに大きいんだね」「イルカにも歯があるよ」「こんなに大きなゾウが群れていたなんてすごいね」つたない私の説明を、お母さんが小さなお子さんに分かりやすく話し、一緒に感動して下さったことがとてもうれしかったです。骨になって初めて分かるいろいろな動物の体、生態。私が初めてこの「骨の動物園」に入ったときの感動を少しでも伝えることができたでしょうか。私自身とても勉強になりました。

（展示解説ボランティア 小林 俊子）



# 骨に魅せられた人たち ~骨の動物園来場者・スタッフの声~

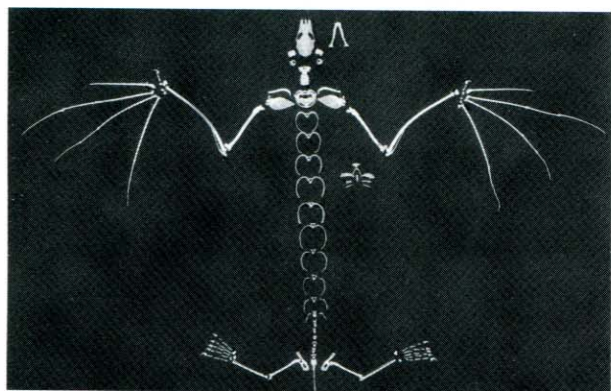
## 骨にはまってしまいました！

特別展の看板を見た瞬間に興味を惹かれました。「骨？物好きだねえ」と苦笑する友人を引っ張って行ったのですが、その面白さに感動！

まずイヌの頭骨、同じ種類なのに形も大きさも全く違う。顔かたちが種類によって違うのは知っていましたが、骨のゴツゴツ感など細部まで色々違う。でも歯は似ているから同じ仲間か…ニホンザルはヒトを縮小したものかと思いきや口元が確実に違うし、アライグマとレッサーパンダも骨だと目の位置も鼻も歯も全然違う！（私は今までこれらの違いがわかりませんでした…）

友人も「骨がこんなに面白いなんて！」という言葉が出るまでになっていました。そんな私達、「なぜこんな形をしているのか」「意外な動物の習性」「標本を受取りに海岸まで～」など豆知識や裏話を学芸員さんから教えて頂き、盛り上がりは最高潮に。結局一日で半分しか見ることができず、翌週も特別展に通う事になってしまいました。

元々骨に対してコワイとか気持ち悪いという思いはありませんでしたが、今回いろいろな動物の骨を見比べることができ、進化の過程でそれぞれに変化してきた結果が見てとれる骨は素敵だ、と感じました。（来場者 野尻真依子）



▲キワガシラコウモリ全身骨格

## 会場の案内係をして

「骨、本物かなあ」と、みんなお化け屋敷へ入るかのようにわくわく、ドキドキです。身近な動物からトラ・キリン・カバ、そして何とクジラ！大きい！それにも負けず、コウガゾウ。こちらを向いて歩いてくるような迫力です。約400万年前の

骨との対面です。大物の人気は高く、ゾウやクジラの前での記念撮影も目につきました。

会場内は「すごいツノ、サイだよ、このキバはなーに？、あれは、あれは？」と子ども達の驚きの声、骨だけの動物園でしたが、大変興味をもって見てくれました。骨のクイズも好評で、説明をしっかりとみないとわからない問題でしたが、ほとんどの子どもが満点でした。こうしてあっという間に1時間も過ぎてしまうのです。図録も好評で、褒めて下さる方も多く、売れ行きも好調でした。私達が企画したわけでもないのに、うれしかったです。たくさんの骨から、生活環境や食生活がわかる、ということも勉強になりました。七二会のクジラ化石や戸隠のシンシュウゾウの化石なども驚きでした。

（受付係 小出 節子・椛島すみ江）



## 骨を組み立ててみて

地質化石館には、動物の骨がたくさん展示されています。初めは興味もなく、触ろうなどとはゆめゆめ思ってもいませんでした。しかし、展示の準備で骨を組み立てることになり、とうとう大嫌いなヘビの骨まで組立を楽しめるようになってしまいました。コウモリやカワネズミなどの小動物の全身骨格も組み立ててみましたが、大変面白かったです。コウモリはなんといっても皮膜の骨が命！と思い、自分が飛んでいる気分になって組み立ててみました。その他の骨もとても繊細で美しいものでした。それに匹敵するほど苦手のヘビの骨も美しく思えるようになりました。動物の骨は無駄なく、ソツなくできていて究極の機能美を表していると思います。（戸隠 宮澤 一栄）



# 学校の資料室には不思議なものがいっぱい!!

児童数の増加によって新たに建てられた共和小学校の開校に伴い、旧共和小学校が廃校になりました。旧共和小学校にはそれまで学校の先生や地元の方々から、子どもの社会教育のために寄贈された資料を展示した郷土資料室がありました。が、小学校の移転によって郷土資料室の資料も新校舎に移されることになりました。しかし新しい校舎の資料室は旧資料室よりも小さいため、全ての資料を移すことができず、旧資料室に資料が残されました。そこで博物館では今年の夏に旧資料室を訪ね、資料室に保管されている資料の一部をもらい受けました。その中には、今では手に入らない貴重な資料もありました。ここではそういった資料のいくつかをご紹介します。



▲共和村役場時代の鬼瓦

共和村は明治22年岡田村と小松原村が合併して誕生し（共和村の名称は翌年から）、昭和29年篠ノ井町へ合併するまで65年間続きました。この瓦は共和村役場の屋根を飾った鬼瓦で、通常「水」の文字が入る場所に役場を示す「役」の文字が入っています。



はくせい  
▲ライチョウの剥製

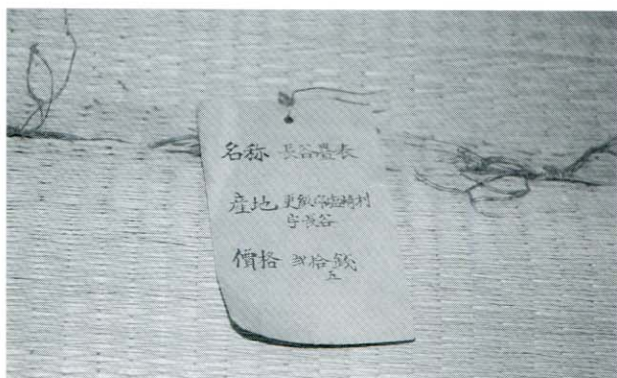
明治時代末、北アルプスで採取され、博物学の教

材として作られたもの。ライチョウも特別天然記念物なので、今では入手できない資料の一つです。



▲子象の足の灰皿

アフリカゾウの前脚を切り取って、灰皿に加工したもの。お土産品だと思われます。今は、ワシントン条約があるのでこんなものは作れません。



▲篠ノ井塩崎長谷の畳表

塩崎長谷地区はかつて、湿地の多い農地を利用し、い草栽培とゴザづくりを盛んにおこなっていました。その記録は江戸時代中ごろまでさかのぼります。この畳表は今は全くなくなってしまった長谷のゴザづくりの名残をとどめる資料です。社会科の教材として寄贈されたのでしょうか。

## 博物館へご連絡を!!

共和小学校のように市内の小学校の中には、郷土資料室をもつ小学校がいくつかみられます。ただそれらの郷土資料室のなかには、資料が整理されていないところもあるようです。市内小学校の中でもし資料が未整理の資料館をお持ちのところがありましたら、博物館へご一報ください。資料室まで出向き、資料室を整理し、資料の目録をつくりまします。もしかしたら貴重な資料が眠っているかもしれません。（田辺 智隆・細井雄次郎）



# 博物館ではこんなこともやっています！

## プラネタリウム演劇「アストロティタイム」

夏の恒例イベントとなった演劇グループ雑貨団によるプラネタリウム演劇が、8月16日・17日の2日間行われました。11年目となる今年の作品は「アストロティタイム～宇宙緑茶～」。奇妙なことに日本の宇宙飛行士訓練学校の落ちこぼれ組3人が宇宙へ飛び立ってしまい、そこで繰り広げられるドキドキハラハラそしてユーモアを交えた物語です。その中では宇宙でお茶を入れるとどうなるだろうという科学的な考察も行われ、意外な結末が最後に待っていました。2回の入場者数は128人でした。



## 博物館まつり開催

博物館の開館記念日9月23日におこなわれる毎年恒例の博物館まつりです。今年は晴天に恵まれました。博物館友の会のみなさんや、絵本の読み聞かせの会「おはなしぼけっと」のみなさんからのご協力をいただいて、火起こし体験や昔の道具クイズ、蓄音機コンサート、葉脈しおり作り、紙芝居など盛りだくさんの催し物を開き、当日は約800人の来館者でにぎわいました。



## 夜の昆虫観察ライトトラップ

7月28日に博物館と茶臼山自然植物園の共催で、昆虫が集まる照明装置(ライトトラップ)を使った夜の昆虫観察会が行われました。カブトムシやクワガタムシ、カミキリ虫のなかま、大きくてきれいなガなど、たくさんの虫たちがライトトラップに集まり、講師の「越後松之山森の学校キョロロ」学芸員・永野昌弘さんに説明してもらいました。人気のカブトムシやクワガタムシも見られ、子どもたちの歓声が響く楽しい観察会でした。



## 地層や化石の授業は戸隠で！

秋は、小学校6年生の理科「大地のつくり」の学習で、戸隠地質化石館を利用する学校が増えています。実際に野外を歩き、崖で地層を観察したり、化石を掘ったりできることが子どもたちに好評です。今年も市内の小学校を中心に、10校ほどが学習に取り組んでいます。実物を見ることで、自分たちの暮らしている大地のおいたちに興味や関心を深めているようです。

